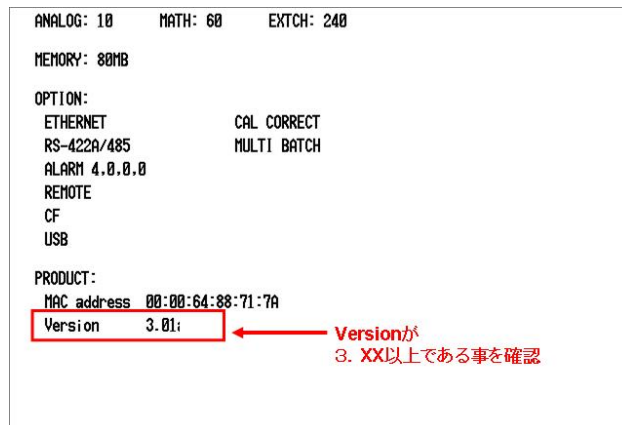


サンプル画面ご使用にあたって

サンプルファイルについて

本データサンプルは、DXAdvanced_R3 用サンプルファイルです。DXAdvanced R3 以前のバージョン、または他の機器には使用できません。

本体のバージョンの確認は、FUNC キーより「システム情報」で確認できます。



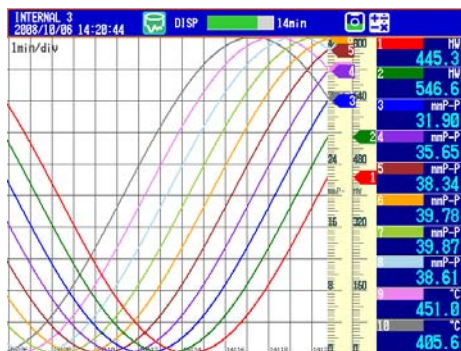
<システム情報画面例>

1. サンプル画像ファイル: sample_img.zip [840KB]

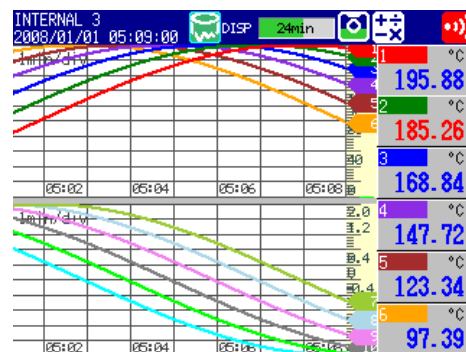
- Basic:8 種類 (DX1000 用 : 4 種類、DX2000 用 : 4 種類)

DXAdvanced カスタムディスプレイにて標準画面を少しアレンジさせたい時などに有効です。各フォルダには、

- 画面設定ファイル(.CDC)が用意されています。ロード方法についての詳細は、「3.サンプルファイルロードの手順」を参照ください

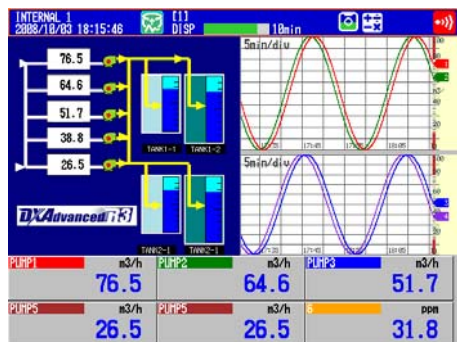


<DX2000 画面サンプル例>

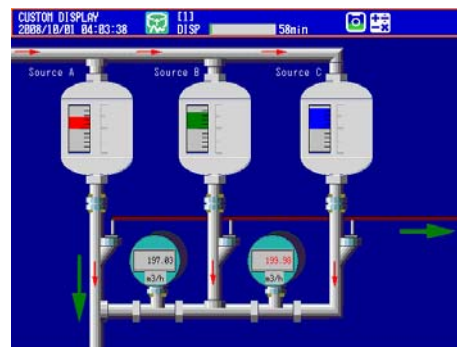


<DX1000 画面サンプル例>

- Application : 20 種類 (DX2000 用のみです)
- 描画サンプルや、ビットマップデータのデータサンプルです。各フォルダには、
- 画面設定ファイル(.CDC)
 - ビットマップファイル (.bmp)
- が含まれています。 .CDC ファイルを DX 本体よりロードしてご使用ください。
ロード方法についての詳細は、「3.サンプルファイルロードの手順」を参照ください。



<サンプル画面イメージ例 1 >

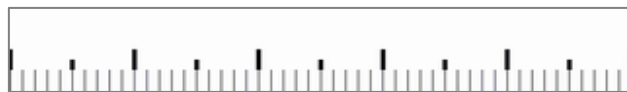


<サンプル画面イメージ例 2 >

※上記画面はイメージです。実際は本体のレンジや単位、タグ設定等により表示が異なります。

2. スケール板および単位集: scale.zip [172KB]

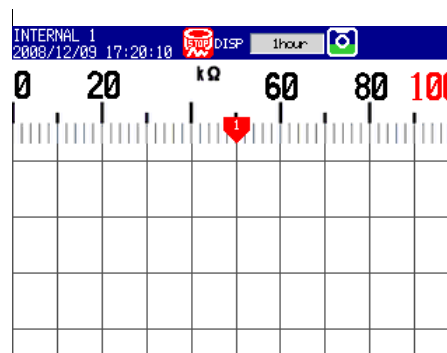
- Scale
50 分割から 120 分割 (DX1000 は 110 分割) までのスケール板を用意しました。DX1000 用は 18 種類、DX2000 用は 19 種類です。これらのテンプレートを使用し、スケール上にラベルを作成すれば、任意のスケール板を作成可能です。
- Unit
単位集です。DXAdvanced で表示できない単位を中心にサンプル化しました。ラベルのサイズは L・M・S の 3 種類を用意していますので、スケールの大きさに応じて使い分けする事ができます。



<Scale 例>

m ³ /h	ppmO ₂	kΩ	Nm ³ /h
g/cm ³	μA	GΩ	Nm ³ /m
m ³ /min	μm	μS/cm	x10 ²
cm ³	μΩ	g/cm ³	x10 ³
cm ²	μF	℃	x10 ⁴
m ³ /s	μS	m/s ²	x10 ⁵
m ²	μV	mm ²	x10 ⁶
m ³	g/m ³	mm ³	x10 ⁻²
kg/m ³	Ω	m ² /S	x10 ⁻³
	x10 ⁻⁴	x10 ⁻⁵	x10 ⁻⁶

<Unit 例>



<スケール板を使用した作成例>

3. サンプルファイルロードの手順

3.1 画面サンプルファイルを DX 本体でロードする

手順 0: ダウンロードしたファイル (xxx.zip) をダブルクリックし、解凍します。

手順 1: 解凍したサンプルファイルを下記の状態コンパクトフラッシュにコピーし、DX 本体へ挿入します。

①Basic および Scale :

「DX1000」、「DX2000」のフォルダ単位でコンパクトフラッシュにコピーしてください。

②Application_J

Application_J フォルダのままコンパクトフラッシュにコピーしてください。

手順 2: DX 本体、「MENU」→「ファイル操作」→「画面データロード」→「全画面」を選択します。

手順 3: ディレクトリ名から、「DX1000」または「DX2000」、「Application-J」を選択し、Disp/Enter キーを押してください。

手順 4: ESC キーを数回押し、運転画面に戻ります。

手順 5: Disp/Enter キーから、「カスタム画面」を選択します。

3.2 スケール板をロードする

※詳細については、本体取扱説明書を参照してください。

手順 1: ダウンロードした「Scale」フォルダから貼り付けたいファイル (xxx.bmp) をコンパクトフラッシュにコピーし、DX 本体へ挿入します。

手順 2: カスタムディスプレイ上で「部品作成」→「スケール板」を選択、カーソルでエリアを指定し、Disp/Enter キーを押してください。

手順 3: カーソルをスケール上に置いた状態で、本体ソフトキーより、「属性設定」を押します。

手順 4: 下記の通り、「スケール」の設定を、種類:ビットマップ、トレンド方向:縦に設定します。



手順 5: 「詳細設定」 を押します。

手順 6: 「詳細設定」 画面の 2 で、Bmp ファイル名を表示させたいファイル名に変更し、「OK」 を押してください。

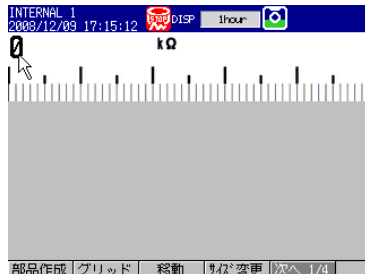


※ 「ファイルもしくはディレクトリがありません」と表示される場合はこのボタンを押し、ファイルのディレクトリを確認し、ここで指定されたディレクトリにファイルを置いてください。

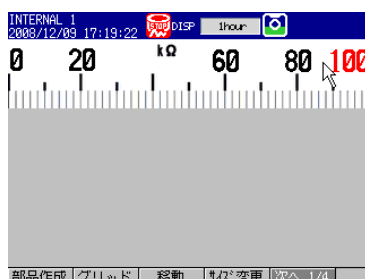
3.3 Unit のビットマップをスケール板に貼り付ける場合

市販のレタッチソフト等で単位集の Unit から貼り付けたい単位を切り出し、表示させたい scale ファイルに貼り付けて保存しておきます。その後の操作は、「3.2 スケール板をロードする」の手順に従ってください。

3.4 スケール板にラベルを貼り付ける



<手順 2 イメージ>



<手順 5 イメージ>

手順 1: 3.2 および、3.3 の要領で画面にスケール板を表示させます。

手順 2: 図の通りラベルを貼り付けたい位置にカーソルを合わせ、「部品作成」 → 「ラベル」 を選択、カーソルでエリアを指定し、Disp/Enter キーを押してください。

手順 3: 「ラベル」 上にカーソルを合わせ、ソフトキーから「属性設定」 を選択します。

手順 4: 文字列、文字の配置、色等を変更し OK を押して決定します。

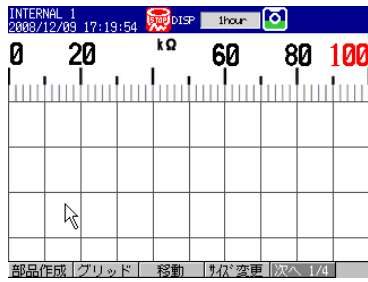
手順 5: 同様にそれぞれのラベルを作成します。

手順 6: カーソルをスケール板の左下端に合わせ、「部品作成」 → 「トレンド」 を選択、カーソルでエリアを指定し、Disp/Enter キーを押してください。

手順 7: カーソルをトレンド上に置いた状態でソフトキーから「属性設定」 を選択します。

手順 8: 「方向」 は「縦」 を選択し、OK を押して決定します。

手順 9: ソフトキーから「実行画面」 を選択します。



<手順 8 イメージ>

免責事項

- ・本設定ファイルはあくまでも画面イメージを確認するためのサンプルファイルです。そのままでは実際にご利用いただけません場合がありますので、ご注意ください。
- ・本サンプルファイルを用いて生じた不具合に関しての責任は負いかねます。